

20024

カテ室における危険予知トレーニングの取り組み

¹星総合病院、²星総合病院

小林 利恵¹、船山 麻沙美¹、木島 幹博²、清野 義胤²、氏家 勇一²

【目的】 1. 心臓カテーテル室（以後、カテ室とする）における医療問題の内容を明らかにする。 2. カテ室において危険予知トレーニング（以後、KYT とする）を実践することで、スタッフが危険を予測し、未然に医療問題を防ぐことができる。また、医療安全に対する意識が向上する。【方法】 カテ室での医療問題の現状を把握するため、過去3年間のカテ室に関する医療問題報告書提出件数を調査。また、カテーテル検査の観察・インタビュー調査を実施。カテ室業務に関わる看護師32名、臨床工学技士9名に対し、医療安全に関するアンケートを実施。患者確認や感染予防など20項目について正しい方法で行えているかを4段階で評価し点数化する。カテーテル検査日に看護師・MEを対象にKYTを実施。報告書の提出件数の調査、アンケートはKYT実施前後で実施し、比較する。【結果】 1. 18年度～20年度のカテ室に関する医療問題報告書は9件。KYT実施後の報告書の提出は現時点で2件である。 2. 観察・インタビュー調査では、「造影機器やカテ台を動かす場面」「薬剤使用の場面」での危険が多くあげられた。 3. KYT実施前のアンケートでは、平均3.15点と「だいたいできている」という結果となった。中でも「移動・移乗時」の項目が最も高い点数であり、「患者確認」がもっとも低い点数であった。KYT実施後のアンケート結果は後日報告とする。【結論】 カテ室にはさまざまな危険が潜んでいることが明らかになった。